

ホームドア設置駅数(番線数)の推移

○令和6年度末までに2,830番線、うち利用者数10万人以上の駅においては621番線でホームドアが整備済み。

令和7年度までの整備目標(令和3年バリアフリー法に基づく基本方針)

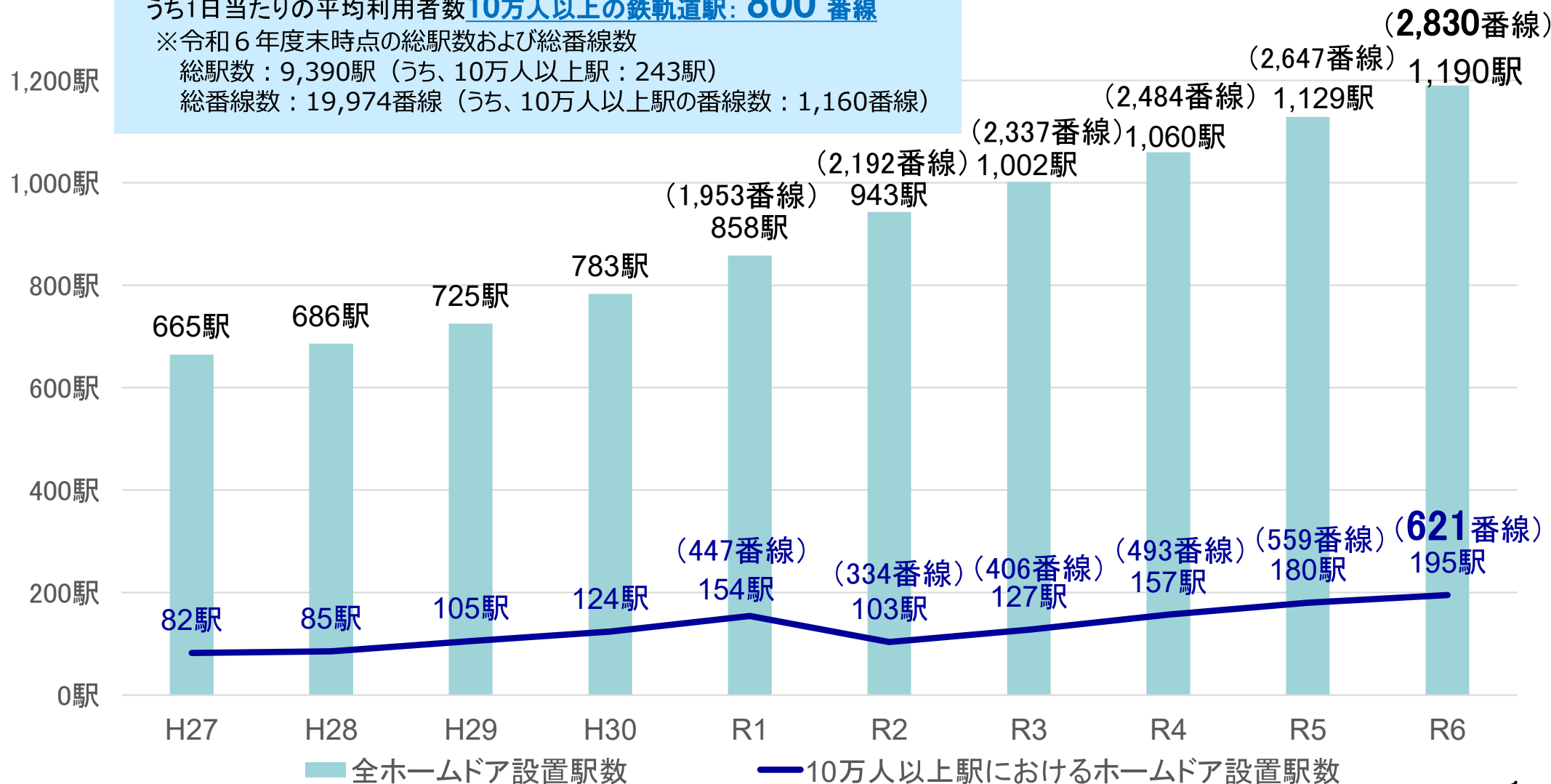
鉄軌道駅全体: **3,000** 番線

うち1日当たりの平均利用者数**10万人以上**の鉄軌道駅: **800** 番線

※令和6年度末時点の総駅数および総番線数

総駅数: 9,390駅 (うち、10万人以上駅: 243駅)

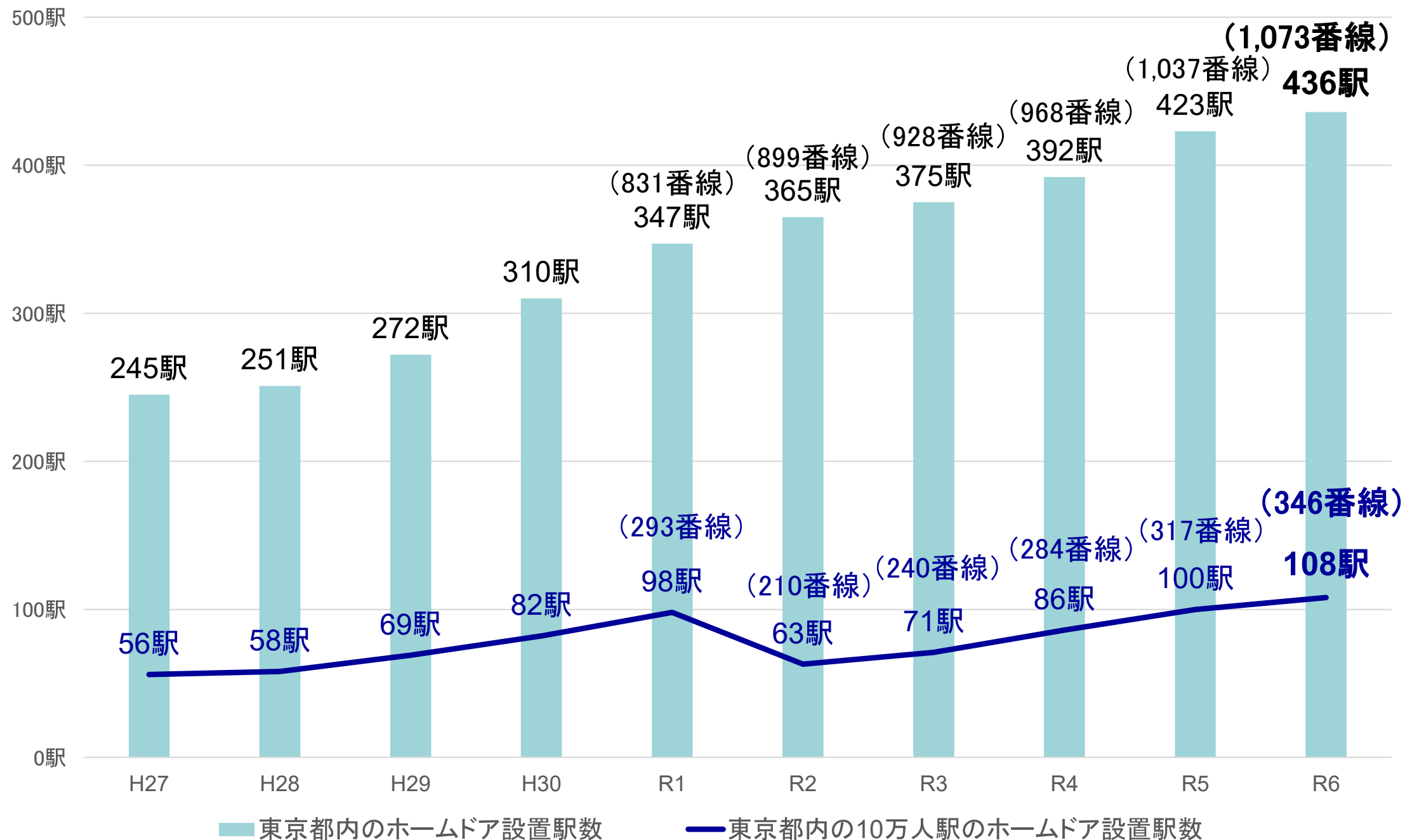
総番線数: 19,974番線 (うち、10万人以上駅の番線数: 1,160番線)



※1 新型コロナウイルスの影響により、鉄道利用者数が減少したことから、令和2年度における「10万人以上駅におけるホームドア設置駅数(番線数)」が減少。

※2 ホームドア設置番線数については令和元年度より集計。

東京都内のホームドア設置駅数(番線数)の推移



※ 新型コロナウイルスの影響により、鉄道利用者数が減少したことから、令和2年度における「10万人以上駅におけるホームドア設置駅数(番線数)」が減少。

令和8年度からの鉄軌道のバリアフリー整備目標（第4次整備目標）

令和7（2025）年12月26日に改正基本方針が公布され、令和8（2026）年4月1日より施行

青字：現行との変更箇所

目標		令和6年度 (2024年度)末 実績	令和7年度 (2025年度)末 数値目標	令和12年度 (2030年度)末 数値目標	数値目標以外の目標
3,000人/日以上及び 基本構想の生活関連施設 に位置付けられた 2,000人/日以上の鉄軌 道駅におけるバリアフリー化 率	段差の解消	94.2%	原則 100%	原則 100%	- 地域の要請及び支援の下、鉄軌道駅の構造等の制約条件を踏まえ可能な限りの整備を行う - その他、地域の実情にかんがみ、利用者数のみならず利用実態をふまえて可能な限りバリアフリー化 - 高齢者、障害者等に迂回による過度の負担が生じないよう、駅及び周辺施設の状況、駅の利用状況、駅の構造等の制約条件等を踏まえ、地域の支援の下、可能な限りバリアフリールートの複数化を進める
	転落防止設備	85.4%	原則 100%	原則 100%	
	視覚障害者誘導用ブロック	46.5%	原則 100%	原則 100%	
	案内設備	77.3%	原則 100%	原則 100%	
	障害者対応型トイレ	92.7%	原則 100%	原則 100%	
	障害者対応型券売機	91.6%	(明記なし)	原則 100%	
ホームドア・可動式ホーム柵の設置番線数（※1）		2,830番線 (621番線)	3,000番線 (800番線)	4,000番線 (900番線)	
プラットフォームと車両の段差・隙間を縮小している番線数（※2）		(※3)	—	4,000番線	
鉄軌道車両におけるバリアフリー化率		62.7%（※4）	約70%（※4）	約80%（※5）	新幹線車両及び特急車両について、車椅子用フリースペースの整備を可能な限り速やかに進める

※1:カッコ内は、10万人/日以上駅の番線数（内数表記）

※2:「プラットフォームと車両の段差・隙間を縮小している番線数」とは、一列車またはホーム一箇所でも、プラットフォームと車両の間の段差・隙間が段差3cm・隙間7cmを満たす箇所がある番線数をいう。

※3:国土交通省集計値：2,588番線

※4:令和2年4月施行の移動等円滑化基準（一列車ごとに2以上（3両編成以下は1以上）の車椅子スペースの設置等）適合車両数の全車両数に対する割合

※5:現行（令和5年4月施行）の移動等円滑化基準（新幹線及び特急車両における車椅子用フリースペースの設置等）適合車両数の全車両数に対する割合